

開発組織がボトムアップで進める『新規事業・商品テーマ探索法』

既存事業・商品のみにとらわれない

新しい価値を生み出すために必要な技術開発テーマの創出方法を紹介

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日時▶ 2019年 10月 24日(木) 10:30~16:30

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

【開催にあたって】

近年の製品ライフサイクルの短期化やIT技術の急成長により、従来のトップダウンによる商品開発は限界に近づいています。このような状況において革新的な商品をいち早く立ち上げるために、R&D部署・商品開発部署こそが主導し、コア技術を生かした商品テーマ、技術開発テーマを早く・確実に創出することが求められるようになりました。そこで、商品開発部署やR&D部署の開発者こそが主導し、既存事業・商品のみにとらわれない新しい価値を生み出すために必要な技術開発テーマの創出方法を紹介します。また、既存事業の技術開発と並行しながら徹底した低リスク・小リソースでテーマを推進するためにファースト・イノベテックが開発した「シンプル技術戦略」を紹介します。R&D技術・コア技術や市場ニーズを元に今、取り組むべき開発テーマを定義し、明確で実現可能な「技術開発戦略」や「技術ロードマップ」へ展開する方法を解説します。そのほか、開発組織が新規事業・新商品創出の主導するための組織育成のポイントや開発推進法を紹介します。

講師 株式会社ファースト・イノベテック 川崎 響子 氏

大学卒業後、NEC(現マイクロン テクノロジー)にてRAMバス DRAM 開発、また LSI ロジック(旧 LSI)にて一部上場企業の複合機や通信機器 LSI 開発に従事する。(株)リコーにて LSI やハード・ソフト全体組み込みシステム開発、および技術戦略立案に従事する。主に新規事業の立ち上げや新商品の開発や SoC 組み込みシステム構想などを行う。また、技術戦略の立案リーダーとして、売上アップにつなげる戦略立案、および開発提案から商品実用化開発までを一貫して遂行する。2017 年より(株)ファースト・イノベテックを立ち上げ、新商品開発に関わるコンサルティングを行う。主な開発商材インクジェットプリンタ、レーザープリンタ・複合機、自動車、IOT 商材

【申込方法】 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

受講料: 1名(税込・昼食代含) ※申込書を FAX でご送信いただく際は、ご使用の FAX 機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	41,800円(本体価格 38,000円)	一般	46,200円(本体価格 42,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

191722-1010 新規事業・商品テーマ探索法

ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属 職		
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛 E-mail からもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問 (FAQ) は当会 HP にてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail:tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

・プログラム・

1.現状を取り巻く課題と解決への筋道

- (1) 製造業・テクノロジー企業を取り巻く環境の変化
- (2) 日本企業が抱える課題
- (3) イノベーションを起こす技術
- (4) 開発組織こそが新規事業リーダーになる理由
- (5) 新規事業・新商品を創出するためのポイント
- (6) 開発全体フロー

2.開発組織がボトムアップで主導するテーマ創出法

- (1) 市場ニーズの調査法
- (2) 技術シーズの棚卸し・整理法
- (3) 想像力をフルに使ったアイデア創出法
- (4) 選ばれる事業・商品に導くアイデア評価法
- (5) 未来予想図を使った開発テーマへのまとめ方

3.継続的に価値を生み出す最強ツール「シンプル技術戦略」

- (1) 技術戦略とは(経営戦略、商品戦略との違い)
- (2) 価値ある技術を生み出すための3つの重要スキル
- (3) 3つの重要スキルを開発組織が獲得するための施策
- (4) 「シンプル技術戦略」の目的と役割
- (5) 「シンプル技術戦略」の基本構成

4.「シンプル技術戦略」の作成方法

- (1) 継続的開発テーマの深掘り
- (2) 未来予想図のブラッシュアップ
- (3) 基本戦略の決定
- (4) プレしない主軸を定義する
- (5) 未来への道筋を明確にするロードマップ作成方法
- (6) 優先順位の決定
- (7) QCD 設定
- (8) 複数シナリオによるリスクヘッジの考え方
- (9) りん議が通る企画のまとめ方、提案事例

5.「シンプル技術戦略」を使用した技術開発事例・ワーク

- (1) 【ワーク】アイデア抽出から選定、基本方針作成
- (2) 【ワーク】「シンプル技術戦略」作成
- (3) 【ワーク】自身の開発テーマにおける「未来予想図」作成

6.ボトムアップ型開発組織の育成

- (1) 開発組織が主導する開発の推進ポイント
 - (2) 場探索スキル
 - (3) ファン育成(巻き込み力)スキル
 - (4) 挑戦マインド育成マネジメント
- 【ワーク】「市場探索+ファン育成」計画

7.質疑応答

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。